

泌尿器腹腔鏡手術技術認定制度について

ホームページをご覧の皆様へ、西宮市立中央病院泌尿器科部長の^{たきうちひでかず}瀧内秀和より、泌尿器腹腔鏡手術技術認定制度についてご説明申し上げます。

皆様は、^{ふくくうきょう}腹腔鏡という言葉をお聞きになられたことがございますか。これは、胃カメラなどと同様に体の中を見るための内視鏡を使って、腸や内臓を被っている腹膜によってできた空間、すなわち腹腔を観察する方法です。健康な方はこの腹腔の存在など気になりませんが、例えば栄養失調でお腹に水が溜まる場所が腹腔であると言えばご理解頂けるものと思います。

^{ふくくうきょうしゅじゅつ}腹腔鏡手術とは、体に小さな穴を3ないし5箇所開けて、お腹の中の様子をテレビモニターに映し、その画像を見ながら腹腔鏡専用の特殊な器具を使いながら副腎や腎臓を摘出する方法です。この手術の対象となる病気は、^{じんぞうがん}腎臓癌、^{にょうかんがん}尿管癌、^{ふくじんしゅよう}副腎腫瘍や^{じんろう}腎盂形成を必要とする水腎症などです。従来の手術では約20cmの切開が必要でしたが、腹腔鏡の傷は全部合わせても4cm程です。傷が小さいために手術後の痛みが軽く、入院期間が短いことがこの手術の最大の特徴です。腎臓の摘出術の場合、従来の手術では約2～4週間の入院が必要でしたが、腹腔鏡手術では10～14日ほどの入院で済みます。私が受け持った患者様で、手術後3日目に退院された方も中にはおられます。

このように、この腹腔鏡手術は外科治療に革命をもたらしました。しかし、腹腔鏡手術は決して良い事ばかりではなく、欠点もあるのは事実です。例えば、普段何気なく当然のこととして認識もしない立体視、即ち左右の目で物を立体的に見ることが、腹腔鏡手術ではできません。皆さんは片目を閉じて階段の登り降りがスムーズにできるでしょうか。手すりに掴まれば片目でも不自由はしないかも知れません。では、手すりに掴まらずに片目ではどうでしょうか。きっと怖い思いをされることと思いますので、実際にはしないで下さい。このように、片目で手の触覚も無い状態で行わなければならないのが、腹腔鏡手術です。このような難しさのために、慣れない医師が腹腔鏡手術を行って医療事故が多く発生しております。

これを保証する制度として本年5月1日より、泌尿器科での腹腔鏡手術技術認定制度が発足いたしました。この制度の明確な目的は、多発する腹腔鏡手術による医療事故を減少させ、腹腔鏡手術を安全で患者さんの体への負担の少ない方法として広く社会に普及させることです。初回の審査では、全国で136名の泌尿器科医師が合格しました。この制度は医師個人を認定することであり、施設の認定は含まれておりません。

当院では、泌尿器科部長の^{たきうちひでかず}瀧内秀和が今回の審査で合格しました。過去に110例以上の腹腔鏡手術の経験を有しており、安心して腹腔鏡手術を受けていただけます。ご家族や知人の方で、腎臓摘出や副腎摘出を受けられる患者様がおられましたら、泌尿器腹腔鏡手術技術認定を受けた医師を受診されることをお勧めいたします。